

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610125381		
法人名	医療法人 栄寿会		
事業所名	グループホーム ひかる		
所在地	徳島市名東町1丁目91番地		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眉山のふもとにあり、住宅街の静かな場所にあります。2Fの窓からは眉山が見え自然豊かな環境、家庭的な雰囲気の中での共同生活を送られています。また、法人の統一した理念である「和顔愛語」を掲げ「優しい笑顔と思いやりのある言葉遣いで、自分と周囲の人々を幸せにする」全職員が笑顔で優しい関わりを日々実践しており、ゆったりと穏やかな生活が出来るよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者一人ひとりの意向の把握に努めたり、外出や行事を楽めるよう取り組むことで、利用者がゆったりと穏やかな生活ができるよう支援している。事業所は、同一法人が運営する施設とともに、行事や地域交流等を行い、近隣住民と交流を深めている。代表者や管理者は、職員が提案や意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、出された意見は、運営面に反映している。職員の資格取得に向けた勉強会も積極的に行っている。また、医療機関との連携体制を整えることで、利用者や家族の安心感につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が、法人理念である「和顔愛語」について、共有し入居者さんへの介護の実践に活かせるように努めている。	事業所では、“和顔愛語”という法人理念に基づき、事業所独自の理念“地域交流で広がる豊かな心・ゆとりある生活”を掲げている。職員は、日頃の会議や新人研修時に理念を共有し、サービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校や保育所から訪問があり、法人事業所の夏祭りや運動会に参加され交流がある。また町内会の防災訓練・清掃活動にも参加している。	事業所では、日常的に、地域住民から野菜や果物、生花の差し入れがある。事業所の祭りや運動会、行事など、利用者と地域とのつながりの場を設けて、支援に取り組んでいる。保育所や小学校の子どもたちやボランティア、近隣住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会・長寿会の方に参加して頂き、運営推進会議にて、理学療法士・管理栄養士等に専門の議題を発表して、また町内会の人々に報告して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて議題に掲げ、サービス内容や現状の報告をし意見も頂き、実践できるよう、職員間で共有している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、民生委員、町内会や老人会の代表者の出席を得ている。同一法人の理学療法士や管理栄養士の出席も得て、議題提供を行ったり、活発に意見交換を行ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月実績報告書・勤務表を提出時に、市のながいき課、担当職員と意見・情報交換を行っている。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、実績報告書を提出している。事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりを担当者に伝え、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員内部研修に参加し、身体拘束の弊害を理解するよう努めている。また日中は開錠し夜9時から朝6時迄は防犯上の事もあるので施錠している。	事業所では、法人研修や新人研修、勉強会で、身体拘束の弊害を正しく理解し、共通認識を図っている。事業所は、玄関に鍵をかけない時間を設けたり、外出や気分転換を図ったりして、利用者一人ひとりの自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年の8月に身体拘束廃止と虐待防止についての内部研修が行われ、参加していない職員には資料をよく読みそれを実践できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合には法人内の専門職と共に利用者様の自己の権利を表明できるよう内部研修などを利用し学ぶ機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者さんやご家族が、入居時の契約内容の他どんなことでも疑問に思うことがあればいつでも聞いていただきやすいような環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているほか、意見や要望等があれば気軽に話していただけるように、日頃からコミュニケーションをとるようにしている。	職員は、日頃の利用者一人ひとりとの関わりの中で、意見や要望の把握に努めている。家族の来訪時には利用者の状況を伝え、話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は、迅速に検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日に行われている職場連絡会や各委員会にて現場の声を聞いてもらえる体制が組まれている。	事業所は、職員専用の意見箱を設置したり、職場連絡会を開催したりして、職員から運営に関する意見や要望を聞く機会を設けている。出された意見は、運営面に反映し、職員の働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績に見合った報酬になるよう、これまでよりもっと詳しく評価できるように法人全体で見直しを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修への参加、介護福祉士やケアマネージャーの資格取得のための勉強会の開催など、より良い介護が実践できる為の人材育成が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践研修・リーダー研修等の外部研修に参加することで、他の事業所と実習の行き来がある。また、看護学校や大学などからの実習生の受け入れもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居説明時に要望などを聞き、入居されてからも困ったことがないか声かけし、問題があった場合はすぐに職員で話し合い解決の糸口を探すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望などを確認し、入居された後も面会時など家族さんが来られた時に声かけし、状況等を伝えまた要望があれば、それに沿った支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの家庭環境や現在の心身の状態を把握しケアプランに反映している。他の事業所から移られた場合は診療情報・生活情報を参考にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後にお盆を拭いてもらったり、洗濯物を一緒にたたんでもらったりした時に、職員が助かっていることを伝え感謝することで自分の居場所があることを感じていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの生活状況をお伝えし、ご家族の要望も取り入れながら、利用者様を支えていけるよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方がいつでも気軽に来られるような環境を作り、また家族と外出出来るよう支援している。	職員は、利用者の家族行事等の外出や友人・知人の来訪を支援している。利用者ができるだけ馴染みの人とともに過ごしたり、馴染みの場所へ出かけたりできるように支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けしたり、体操等、またおやつの時など皆が楽しめる時間を作り、職員が間に入り利用者さん同士の交流ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設や病院に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察または、日頃の会話の中から好き嫌い等を把握し、それを暮らし方の希望の参考にしている。また困難な場合は、本人本位に検討してもらっている。	事業所では、日頃の利用者との関わりのなかから、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者は、家族から情報を得て、利用者本位の暮らしを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	3ヶ月毎のカンファレンス時に、または毎日の申し送り時に、一人ひとりの状況等を話し合い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に変化があった方は、申し送りやケア記録・連絡ノートに記載し職員間で共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望や希望を聞き、介護計画に取り入れ常にケアの改善に努めている。	事業所では、担当職員が主となり、利用者や家族の意向を把握している。計画書作成者と介護職員が、各々にモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のケア記録に記載して、重要な事は、連絡ノートに記載し、他の職員が回覧しサインし職員間で共有している。また、カンファレンスで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望又は、課題について、カンファレンス時または、急ぐ場合は管理者・主任・計画作成者でミーティングを行い、必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、来訪し散髪をしながら楽しく会話されている。また、運営推進会議の後、町内会・長寿会の方々と利用者さんも一緒に食事を取り、情報を共有し楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の方にかかりつけ医の希望を確認し、医療機関と連携し月3回医師・看護師の往診を行っている。	事業所は、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診の際は、毎回、家族と相談し、職員が付き添って、日頃の利用者の状況を説明している。職員は、利用者が適切な医療を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員が在籍し、常に相談し異常があれば看護師・医師に伝え指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院検討委員会に参加し、協力医療機関内地域連携室職員と連携し、情報交換又は、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方への説明の時に、重度化した場合の対応を説明し同意書にサインを頂き、医療等に関する意思確認書にも記入して緊急時に対応している。	事業所では、入居時の段階で、意思確認書を用いて、利用者や家族に事業所のできることを説明している。医師や看護師、職員が連携を図り、利用者や家族が安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。利用者の心身状態の変化に応じて、家族に意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるように、症状別緊急対応マニュアルがある。また、職員内部研修でも緊急時の対応について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を実施している。新人職員には消化器の使用方法的の説明も、また運営推進会議の議題とし発表している。また町内会の防災訓練も参加している。	事業所では、年2回、避難訓練を行っている。消火器訓練や消化散水栓を使用する訓練を実施している。利用者全員分の手作り頭巾を用意し、災害に備えている。町内会の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシー等傷つけない・損ねない言葉使いや介護を行うよう努力している。	職員は、利用者の人格を尊重した支援に努めている。利用者にとって、心地のよい言葉かけをするように、職員間で確認しあっている。さりげない見守りを中心とした支援に取り組み、本人本位の生活を支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に添えるよう、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースを日頃の様子または、カンファレンス等で話し合い、利用者本位のペースに沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が気に入った服を着てもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけし、上に羽織る等その時その時に応じて支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には出ないものを、おやつに出すよう心がけてる。また、片付け時のお盆拭きや洗濯物等は利用者さんと一緒に畳んでいる。	食事は、利用者一人ひとりの心身状態にあわせた食事形態として、刻み食やとろみ食を調理している。利用者と職員で、食事の準備や片付けを行ったり、おやつ作りを支援したりして、食事を楽しむための環境づくりに取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の厨房より食事が提供され、盛り付けは職員が個々の食事形態に合わせ刻んだり、ミキサーにかけ行っており。水分は、ペットボトルにお茶等を入れいつでも飲めるよう提供しお茶の時間にも水分補給している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。自分で出来ない方には、職員が介助をし口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した方には、プライドを傷つけないよう声かけし更衣介助をしている。また、排泄表を作成し、その人にあつた対応を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者の状況に応じて、紙パンツやパットを使用し、できるだけ気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。夜間は、オムツやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操のDVDを使い職員が手本となり機能訓練へ参加していただき、適度な運動を心がけている。また水分補給にも乳製品類を使用するよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ゆっくり入浴をたのしんでもらうため、午前・午後に分けて入浴介助をしている。外出、外泊にも対応し週3回入浴できるよう配慮している。	事業所では、入浴日を定めて、利用者一人ひとりの意向を大切にしたい入浴を支援している。同性介助による入浴を支援したり、同一法人が運営する隣接の施設の特別浴での入浴を支援したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。腰が痛い等、日中横になりたい方は、介助が必要な方は介助し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬ファイル(用量・効能・副作用)を作成している。協力医療機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・お盆拭き等の役割分担をしてもらっている。天気の良い日には散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外出し食事や買い物を楽しまれている。	事業所では、事業所で飼っている猫を見るために戸外に出たりして、利用者間の交流の支援に努めている。また、近隣の散歩など、その日の利用者の意向や気候に応じた外出を支援している。季節ごとの花見や初詣等を、車椅子の利用者も楽しむことができるよう工夫しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へ電話ができる支援をしている。また、本人が電話を掛けられない場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が見え癒しの空間となっており、また、ホールや通路の壁には季節の工作を飾り心地よく過ごして頂くよう工夫している。	共用空間は、明るく清潔な環境となっている。生花や季節感に配慮した手芸品を飾り付けている。ソファなどの配置を工夫して、利用者が過ごしやすいよう家庭的な空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士または、家族の方等、ホール・食堂・居室等、気に入られた場所で話が出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、家具や食器等、日頃から使い慣れた物を持って来られ、自宅のように落ち着いて過ごせるよう支援している。	事業所では、居室に、利用者の使い慣れた家具やテレビ等を持ち込んでもらっている。また、事業所は、利用者が落ち着いて過ごすことができるように、思いおmoiの小物や家族写真、手芸品等を居室に飾ることを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、自分の力で出来るように、トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が、法人理念である「和顔愛語」について、共有し入居者さんへの介護の実践に活かせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校や保育所から訪問があり、法人行事の夏祭りや運動会に参加され交流がある。また町内会の防災訓練・清掃活動にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会・長寿会の方に参加して頂き、運営推進会議にて、理学療法士・管理栄養士等に専門の議題を発表して、また町内会の人々に報告して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて議題に掲げ、サービス内容や現状の報告をし意見も頂き、それを実践できるよう、職員間で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告書・勤務表を提出時に、市のながいき課、担当者の方と意見・情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員内部研修に参加し、身体拘束の弊害を理解するよう努めている。また日中は開錠し夜9時から朝6時迄は防犯上の事もあるので施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年の8月に身体拘束廃止と虐待防止についての内部研修が行われ、参加していない職員は資料をよく読みそれを実践できるよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合には法人内の専門職と共に利用者様の自己の権利を表明できるよう内部研修などを利用し学ぶ機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者さんやご家族が、入居時の契約内容の他どんなことでも疑問に思うことがあればいつでも聞いていただきやすいような環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているほか、意見や要望等があれば気軽に話していただけるように、日頃からコミュニケーションをとるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日に行われている職場連絡会や各委員会にて現場の声を聞いてもらえる体制が組まれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績に見合った報酬になるよう、これまでよりもっと詳しく評価できるように法人全体で見直しを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修への参加、介護福祉士やケアマネジャーの資格取得のための勉強会の開催など、より良い介護が実践できる為の人材育成が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践研修・リーダー研修等の外部研修に参加することで、他の事業所と実習の行き来がある。また、看護学校や大学などからの実習生の受け入れもある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に要望などを確認するほか、入居されてからも困ったことがない声かけし、問題があった場合はすぐに職員で話し合い解決の糸口を探すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望などを確認し、入居された後も面会時など家族さんが来られた時に声かけし、状況等を伝えまた要望があれば、それに沿った支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの家庭環境や現在の心身の状態を把握しケアプランに反映している。他の事業所から移られた場合は診療情報・生活情報を参考にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後にお盆を拭いてもらったり、洗濯物を一緒にたたんでもらったりした時に、職員が助かっていることを伝え感謝することで自分の居場所があることを感じていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの生活状況をお伝えし、ご家族の要望も取り入れながら、利用者様を支えていけるよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方がいつでも気軽に来られるような環境を作り、また家族と外出出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けしたり、体操等、またおやつの時など皆が楽しめる時間を作り、職員が間に入り利用者さん同士の交流ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設や病院に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察または、日頃の会話の中から好き嫌い等を把握し、それを暮らし方の希望の参考にしている。また困難な場合は、本人本位に検討してもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	3ヶ月毎のカンファレンス時に、または毎日の申し送り時に、一人ひとりの情况等を話し合い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に変化があった方は、申し送りやケア記録・連絡ノートに記載し職員間で共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望や希望を聞き、介護計画に取り入れ常にケアの改善に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のケア記録に記載して、重要な事は、連絡ノートに記載し、他の職員が回覧しサインし職員間で共有している。また、カンファレンスで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望又は、課題について、カンファレンス時または、急ぐ場合は管理者・主任・計画作成者でミーティングを行い、必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、来訪し散髪をしながら楽しく会話されている。また、運営推進会議の後、町内会・長寿会の方々と利用者さんも一緒に食事を取り、情報を共有し楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の方にかかりつけ医の希望を確認し、医療機関と連携し月3回医師・看護師の往診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員が在籍し、常に相談し異常があれば看護師・医師に伝え指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院検討委員会に参加し、協力医療機関内地域連携室職員と連携し、情報交換又は、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方への説明の時に、重度化した場合の対応を説明し同意書にサインを頂き、医療等に関する意思確認書にも記入して緊急時に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるように、症状別緊急対応マニュアルがある。また、職員内部研修でも緊急時の対応について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を実施している。新人職員には消化器の使用方の説明もし、また運営推進会議の議題とし発表している。また町内会の防災訓練も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシー等傷つけない・損ねない言葉使いや介護を行うよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に添えるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースを日頃の様子または、カンファレンス等で話し合い、利用者本位のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が気に入った服を着てもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけし、上に羽織る等その時その時に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には出ないものを、おやつの際に出すよう心がけてる。また、片付け時のお盆拭きや洗濯物等は利用者さんと一緒に畳んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の厨房より食事が提供され、盛り付けは職員が個々の食事形態に合わせて刻んだり、ミキサーにかけ行っており。水分は、ペットボトルにお茶等を入れいつでも飲めるよう提供しお茶の時間にも水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。自分で出来ない方には、職員が介助をし口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した方には、プライドを傷つけないよう声かけし更衣介助をしている。また、排泄表を作成し、その人にあつた対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操のDVDを使い職員が手本となり機能訓練へ参加していただき、適度な運動を心がけている。また水分補給にも乳製品類を使用するよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	ゆっくり入浴をたのしんでもらうため、午前・午後に分けて入浴介助をしている。外出、外泊にも対応し週3回入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。腰が痛い等、日中横になりたい方は、介助が必要な方は介助し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬ファイル(用量・効能・副作用)を作成している。協力医療機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・お盆拭き等の役割分担をしてもらっている。天気の良い日には散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外出し食事や買い物を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へ電話ができる支援をしている。また、本人が電話を掛けれない場合は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が見え癒しの空間となっており、また、ホールや通路の壁には季節の工作を飾り心地よく過ごして頂くよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士または、家族の方等、ホール・食堂・居室等、気に入られた場所で話が出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、家具や食器等、日頃から使い慣れた物を持って来られ、自宅のように落ち着いて過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、自分の力で出来るように、トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。		